

「若手教員育成システム」の成果

—実施3年目のアンケート結果から—

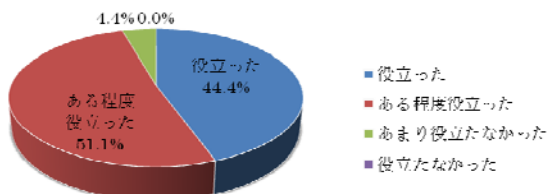
教育センターでは、平成18年度より「若手教員育成システム」を実施しています。

このシステムは、教職2年目～4年目教員を対象に、勤務校におけるOJT(※)を通して授業実践力の向上を図るとともに、校内における教員の相互研鑽の雰囲気高めることをねらいとするものです。

平成20年度末に行ったアンケートから、このシステムの成果が明らかになってきました。

○若手教員の授業実践力の向上に役立っています。

若手教員の授業実践力を向上させるのにこのシステムは役に立ちましたか（校長回答）

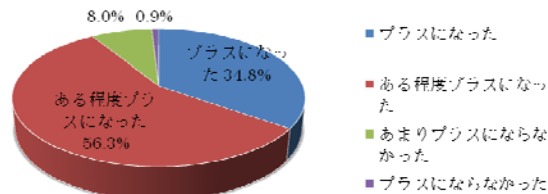


【校長向けアンケートより】

- ・ 身近な教員から目的・場所・時間を的確にとらえたアドバイスがあり、授業実践力に加えて、教師としての姿勢を学びとる良い機会となった。
- ・ OJTとして現場で先輩から指導を受ける、という方向は良いと思う。
- ・ 先輩教諭の指導の下、研鑽を重ねることで、授業への取り組みについて意欲の喚起と意識の高揚が図れた、また、先輩の助言を得ることで、授業の幅に広がりが出てきた。
- ・ 若手教員にとってサポーターがいることは心強かったようである。（若手と校内サポーター相互に）高め合うことができた。

○校内の同僚教員にとってもプラスになっています。

あなたにとってこのシステムはプラスになりましたか（校内サポーター回答）



【校内サポーター向けアンケートより】

- ・ 児童に真摯に向かい合う姿に、自身の初心を思い出し、自分を振り返るよい機会となった。
- ・ 自分が経験を通して気づき改善してきた学級経営の工夫を伝えるために、それを言語化する作業が、自分の考えを整理できるよい機会となった。
- ・ 若手と校内サポーターだけでなく、学年やブロック、同じ校務分掌の同僚同士のチームワークも向上し、同僚性が高まった。
- ・ 教材の分析やワークシートの作成をしていく中で、自分自身が改めて教材と向かい合い見つめ直すことができ、自分自身の資質の向上につながった。

※OJTとは

「On the Job Training」の略で、一般的には「職務の遂行を通して行われる研修」を指します。OJTと対をなす教育センター等での集合研修を、「OFF-JT」と呼ぶこともあります。

若手教員育成システムOFF-JTを実施しました。

- ◆平成20年度で若手教員育成システムを修了する受講者を対象としたOFF-JTを実施しました。受講者が各勤務校で行ってきた3年間のOJTを振り返るとともに、今後の自己研鑽を展望する良い機会となりました。



若手教員育成システム「校内サポーター」研修会を実施しました。

- ◆主として平成21年度新たに「校内サポーター」になった先輩教員に参加していただき、研修会を実施しました。



このシステムの趣旨及び「校内サポーター」の役割等について、
講話や「校内サポーター」同士の情報交換を通して理解を深めました。

今までの経験を若い人のために役立てたい。

自分自身が先輩に育てられたことを若手に返していきたい。

同じ仲間として支え合える関係になりたい。

お互いに組織の一員として相互研鑽していきたい。

コーディネーター役となり、職員を巻き込み楽しく充実した研修にしたい。

教員という職業の素晴らしさ・楽しさをともに味わっていきたい。

よく話しかけ、いっしょに考えていきたい。

みなさん、よろしくおねがいます。